

言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童(生徒)が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること

例えば、小学校4年の教材「ごんぎつね」の登場人物の気持ちを考える学習では…

教材の冒頭で、登場人物の「ごんぎつね」について、「ごん」は「ひとりぼっちの小ぎつねで、(中略)あなをほって住んでいました」や「いたずらばかりする」ことが描写されています。そのうえで…

(教材文の叙述)

ある秋のことでした。二、三日雨がふり続いたその間、ごんは、外へも出られなくて、あなの中にしゃがんでいました。

教員が「見方・考え方」を意識しないと…

どこから考えるのかな？  
どうしたらいいの…



子供たちは、様々な見方・考え方で文章を読み、自分なりの考えで気持ちを想像していた。

子供が「見方・考え方」を働かせると…

本文を根拠に気持ちを考える

本文の「しゃがんで」から、「ごん」は、〇〇のような気持ちになっていると思います。なぜなら…



めあてや学習課題、発問、指示などにより、子供たちが言葉に意識的に注目して、「ごん」の気持ちを考える姿を目指す。

例えば、「しゃがんで」の言葉に着目し、「ごん」の気持ちを考えている子供は…

子供の問い:「しゃがんで」に着目すると、どのような「ごん」の気持ちが考えられるかな…

ごんは、ひとりぼっちだからなあ。さびしかったから、しゃがんでいたのかな？

主に登場人物の「状況(設定)」に着目して



ごんは、村にいたずらしによく出かけていたから、この場面では、早くいたずらしたいな…と考えていたのかな？

主に「文脈(展開)」に即して



「しゃがんでいる」という言葉から、なんだか落ち込んでいる感じがするな。「すわっている」と「しゃがんでいる」ではどう違うんだろう？

主に言葉の「使い分け」に着目して



「ごん」の気持ち(さびしさ・不安・外に出たいなど)に迫っていく子供の学びの姿

例えば、授業の終末の「振り返り」の場面で、自分の考えを振り返ることで

- 「ごん」の行動・場面の様子(文脈)・人物の状況から、気持ち(や人物像)が分かったぞ。
- ほかの言葉から、気持ちを考えられないかな？

子供たちは、言葉による見方・考え方をより意識して働かせるようになる。